

[2015 年取扱終了]

取扱説明書

Vaihinger SANOMAT
Schlagsahne-Automaten

ドイツ ファイヒンガー社製
生クリームホイップマシン ザノマット
ユーロ・ピッコロ 1.5L 2.5L
ユーロ・プラス 5L 10L
ユーロ・プラス S 5L 10L
ユーロ・プラス・オート 5L 10L



よく読んで安全に正しくお使いください。

- ご使用前に、この取扱説明書をお読みいただき安全に正しくお使いください。特に「安全上の注意」はご使用前に必ずお読みいただき安全にお使いください。
- 幼いお子様にはさわらせないでください。また、取扱説明書の内容が理解できない方の使用はお控えください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。紛失した場合は、お買い上げいただいた販売店、またはルーツ貿易までご連絡ください。

2020/3 改定



総輸入元
ルーツ貿易株式会社
ROOTS TRADING CO., LTD.
Tel: 047-379-1505 (代表)

パーツ更新履歴

[2020.3] Oリング(ゴムパッキン)のカラー化

2020年3月以降出荷分より、Oリング(ゴムパッキン)が灰色から青色に徐々に変更されます。(機種や入荷時期により異なります) これはOリングが劣化した際に万が一異物としてクリームに混入した場合に発見・認識しやすくなるものです。素材、サイズの変更はございません。



[2020.3] 洗剤の変更

EUのレギュレーション No.528/2012(化学製品についての規定)により人体の健康や環境保護への規制が変更され、より影響の少ない洗剤に変更することになりました。今後はメーカー推奨洗剤を必ずご使用いただきますようお願いいたします。

メーカー推奨洗剤「プロバイオクリーン N20ND」
(取り扱い:2kg 入りボトル)



重要事項

ザノマットをご使用いただくにあたり、常に最良のホイップクリームを得るために、以下の点を留意してください。

1) 生クリームは乳牛の食べる飼料の種類や量、また季節によって状態の変わる自然の原料です。これらの要素は、ホイップしたクリームの嵩や安定性に少なからず影響を与えます。

ザノマットは、より安定したホイップクリームを得るために、コンテナを収めるケース及びホイップクリームが出てくる直前まで常に 5°C 前後を維持します。(右写真: 国際特許を取得した先端部分の冷却システム) これがホイップクリームを安定的に供給するために不可欠な要素であり、私たちがザノマットをお勧めする理由でもあります。



安定した状態のホイップクリームを得るために、すべての工程で低温が維持されることは大変重要であり、わずかな間でもクリームの温度が上がってしまうとクリームの品質に影響を与え、場合によってはホイップが難しくなることもあります。

2) 細菌の侵入・繁殖を防ぐために、毎日の洗浄は非常に重要です。だからこそ、ザノマットは誰が洗浄しても理想的な洗浄状態が得られるように設計されています。

ザノマットは、クリームが通るパーツを細かく分解することができ、衛生状態を目で確認することができます。常に衛生的に使用できることで安心です。

3) ザノマットを設置する環境、毎日の洗浄状況などの条件によって、機械本体の寿命が変わってきます。

粉塵が舞う厨房環境の場合、冷却用コンプレッサーの放熱板が目詰まりし、コンプレッサーが損傷することがあります。また、洗浄の頻度や工程が不十分だった場合、ポンプやモーター、冷却部分の不具合の原因となり、修理が必要となることがあります。

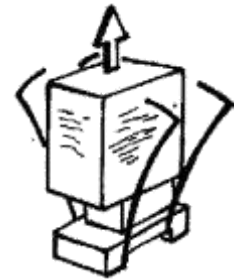
常に良い状態でザノマットをお使いいただけるように、取扱説明書を必ずお読みください。

目次

1) 開梱と内容物確認	4
2) ザノマットを安全にお使いいただくために	4、5
3) 各部分の説明	5、6
4) 基本的な使い方	7～9
5) 洗浄について	10～15
6) 不具合があった場合の対処	16～18
7) パーツの寿命について	18
8) 廃棄について	18
9) 分解図とパーツリスト	19～22
ザノマット メンテナンス依頼書	23

1) 開梱と内容物確認

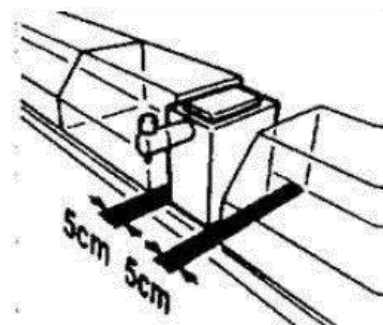
- ・ 輸送用のケースから本体を取り出し、輸送中にダメージがなかったか確認してください。もしこの時点で問題があれば輸送会社や購入先に連絡をしてください。
- ・ ケースの中に以下の付属品が入っていることを確認してください。
 - 取扱説明書
 - 工具
 - ソケットレンチ、スパナ、押し出し棒
 - 洗浄ノズル、クリーニングブラシ(中、小、ミニ)
 - Oリング(ゴムパッキン)、食用ワセリン



日本国内で出荷された機械は、輸入元にて
試運転を済ませた状態でお届けしています。

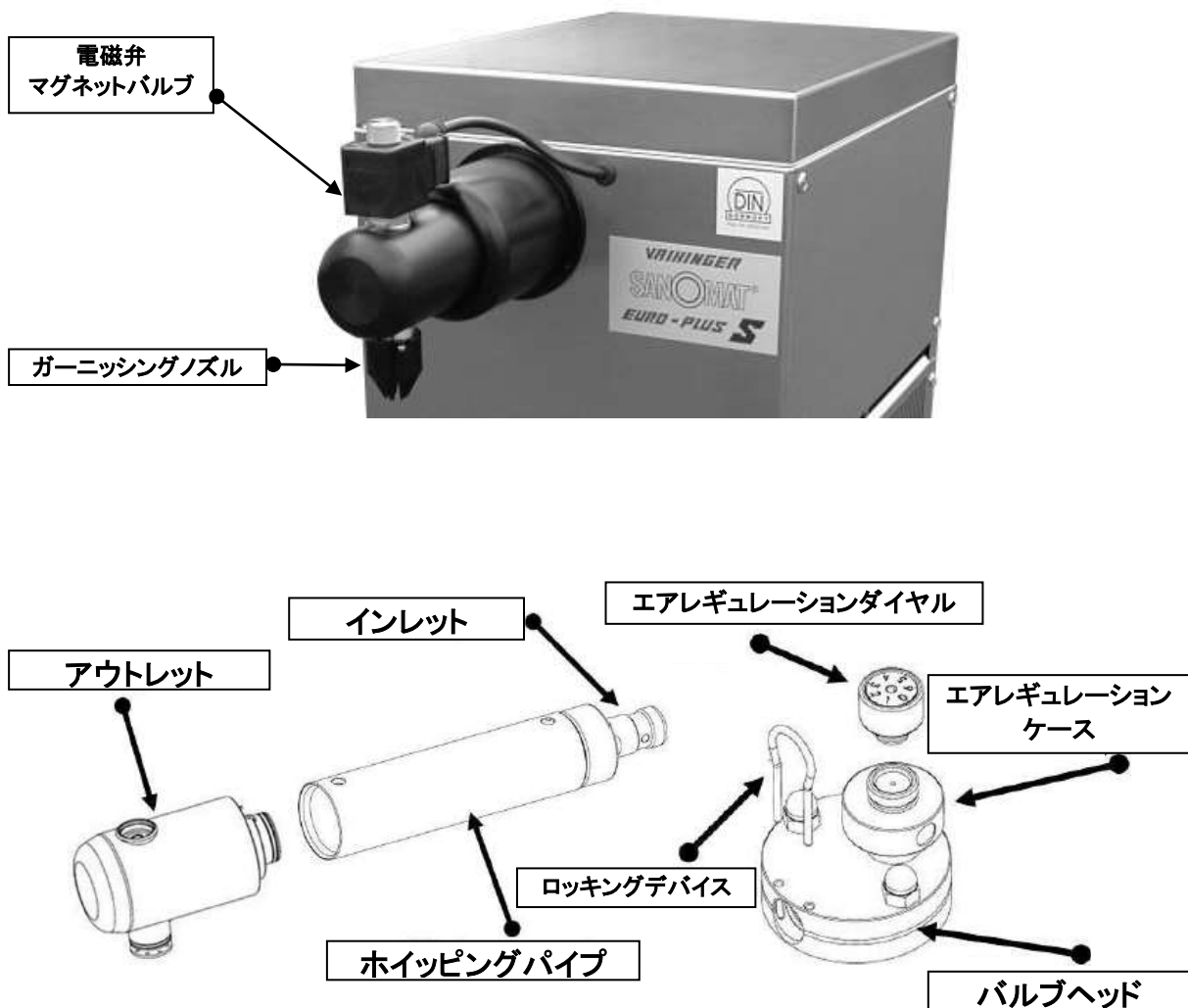
2) ザノマットを安全にお使いいただくために

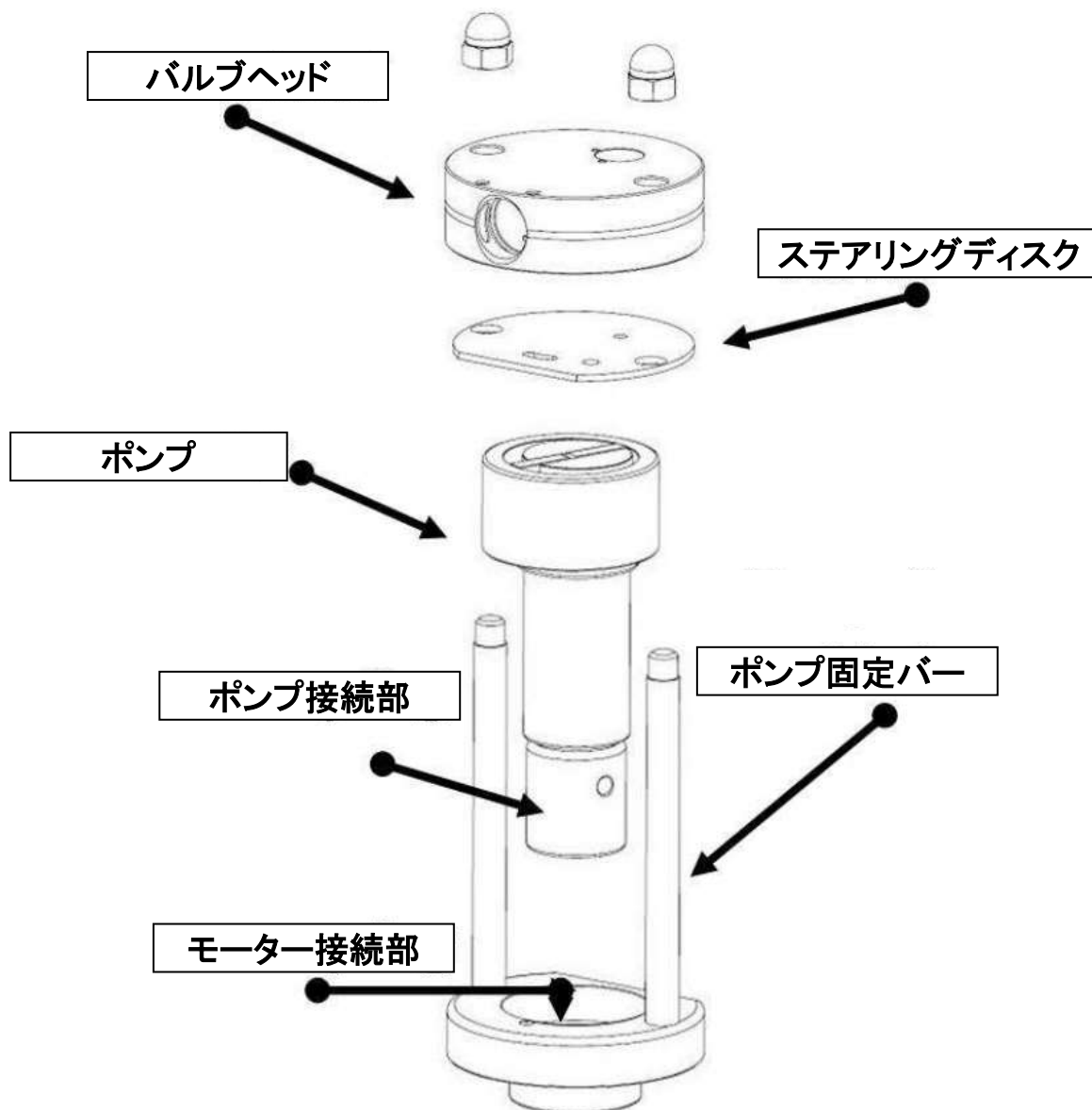
- ⚠ ザノマットは使用時間外も冷却を入れたままでご使用ください。数日使用しない場合は電源を切り、使用前に洗浄してください。
- ⚠ ザノマットはクリームホイップ以外の目的で使用しないでください。故障の原因となります。
- ⚠ 洗浄、修理には、メーカー推奨の洗浄液、専用の部品を使用してください。他の洗浄液、部品を使用することによる故障は、メーカーの保証対象外になります。
- ⚠ ザノマットの洗浄に高圧蒸気を使ったり、直接ホースで水をかけたりしないでください。電気系統などの故障の原因となります。
- ⚠ ザノマットの電源は、壁面のコンセントから直接繋いでください。
- ⚠ アースは必ずつないでください。漏電の原因となります。
- ⚠ ザノマットは安定した平らなところに設置してください。
- ⚠ ザノマットは室温が 40°C 以下の場所でご使用ください。
- ⚠ 火器など高温になるものの近くでの使用は避けてください。
- ⚠ 本体の蓄熱を防ぐために、左右の壁などからそれぞれ 5 cm 空けて設置してください。
- ⚠ 本体左右のスリット、本体底部はフィルターなどで塞がないでください。冷却機能に支障をきたす場合があります。
- ⚠ 直射日光が当たる場所での使用は避けてください。
- ⚠ 洗浄は常に正しく行ってください。



- * 100V 50/60Hz(日本国内用)のフューズは最低 15 アンペアを用意してください。
- * 移動、搬送された機械は、冷却ユニットが正常に稼働するために電源を入れるまでに 2 時間空けてください。

3) 各部分の説明





4) 基本的な使い方

- 1) 電源プラグを電源に差し込みます。
- 2) メインスイッチ(赤)と冷却スイッチ(緑)を押します。(右写真)
- 3) スイッチが入ると冷却が始まるので、10～15分おきます。
冷却用コンプレッサーは庫内温度を感知して作動・停止を繰り返す、最適な温度(5℃前後)を維持します。
- 4) クリームをコンテナに入れます。コンテナに投入するクリームは良いホイップクリームを得るために3～5℃に冷えたクリームを使用するようにして下さい。
コンテナを庫内にセットし、サクシオンパイプをコンテナに差し込みます。(右中図)

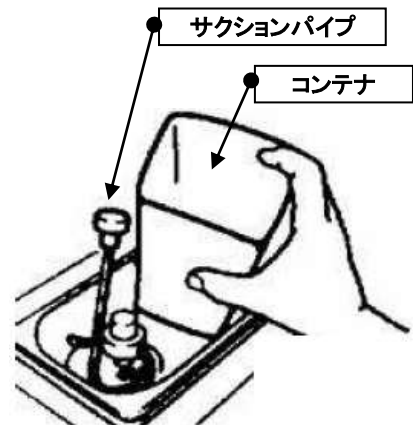


クリームに加糖する場合は、あらかじめボウルでクリームと糖粉を混ぜてからコンテナに投入してください。

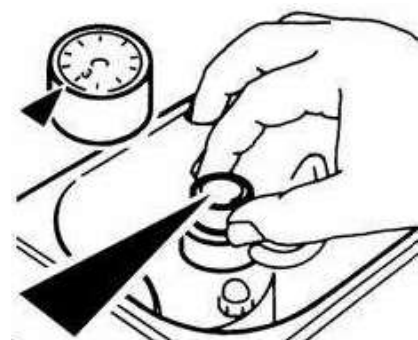


コンテナ以外の本体部分にクリームを投入しないでください。故障の原因となります。

- 5) 庫内の前方部にあるエアレギュレーションダイヤルを回し、目盛を「1」以上にしてください。ダイヤルの数値が大きくなるほどオーバーランが高くなります。乳脂肪のサイズや比率によって、ダイヤルの数値の範囲が異なります。(右下図)



目盛の範囲を「3」～「4」で使用すると、理想的なホイップ状態になります。この範囲で使えるように、ホイッピングディスクの設定を調整することをお勧めします。(p.7 下部参照)



目盛の設定を「1」～「2」で長期間使用した場合、ポンプに過度の負担がかかる場合があります。ポンプの内部に封入されたオイルが漏れてくると、修理・交換が必要となりますのでご注意ください。



ダイヤルを「0」にしている時は空気が全く入っていない状態となります。「0」の状態では機械を作動させると、ポンプ故障の原因となります。

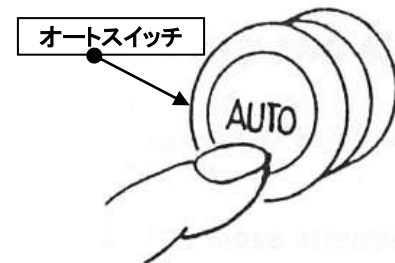
- 6) 黒いつまみ「ハンドスイッチ」を右に回し、「0」を「1」にするとホイップクリームが得られます。(右写真)
止める場合は元の位置にスイッチを戻します。



また「オートスイッチ」を使うことで定量のクリームをホイップすることが可能です。ポテンションメーターダイヤルの目盛はおよその秒数を示し、設定した秒数だけ作動させることができます。(右中図) オートスイッチを押すと、設定された秒数のホイップクリームが得られます。(右下図)



**ホイッピングをする際には、コンテナの中を空で使
しないようにして下さい。クリームが詰まることや、ポ
ンプが故障する原因となります。**

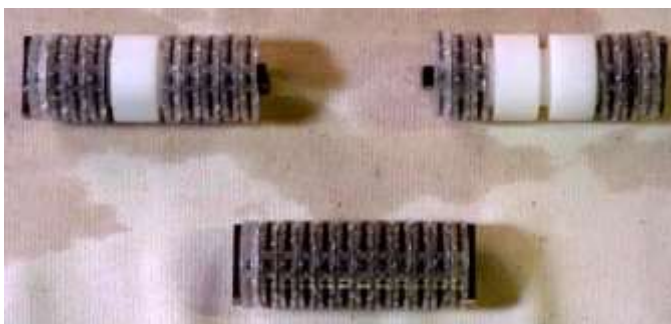


ザノマットは、35%の低脂肪から 45%を超える高脂肪のクリーム、またコンパウンドクリームまで、様々なクリームをホイップすることができます。

クリームの脂肪率に合わせて、ホイッピングパイプ内のディスクコラムの設定を変更することができます。

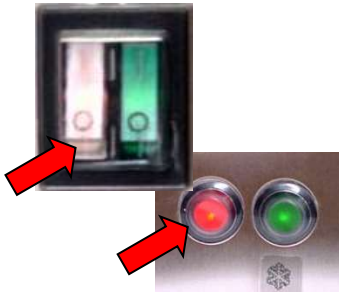
- ① **～38%** ディスク(透明)12枚、ステンレスプレート11枚、白ブロックなし
- ② **38%～42%** ディスク(透明)9枚、ステンレスプレート7枚、白ブロックを1個使用
- ③ **42%～** ディスク(透明)6枚、ステンレスプレート4枚、白ブロックを2個使用

* 植物性脂肪のクリームを使用するときは、純生クリームと比べて粘度が高い傾向になります。



ディスクコラムは両端がネジになっています。

<ディスクコラムの取り出し方>



① メインスイッチ(赤)をオフにします。



② 電磁弁上部のネジを外し、マグネットバルブも一緒に外します。



③ バルブヘッドのロックングデバイスを抜きます。




④ アウトレットを引き抜きます。



⑤ ロッキングデバイスを使い、ホイッピングパイプのロックングボルト(バネ式)を押し込み、ホイッピングパイプを回しながら両端部(2ヶ所)を外します。




5) 洗浄について


 ザノマットを常に良い状態で使用いただくために、機械の洗浄は必ず行ってください。

洗浄の頻度、方法は、以下の表を参考にしてください。

いつ	清掃手順	対応ページ
毎日	① 消毒洗浄	9～11 ページ
週 1 回	② エアレギュレーションダイヤルの洗浄	12 ページ
数日電源を切る前	② 消毒洗浄	9～11 ページ
	③ エアレギュレーションダイヤルの洗浄	12 ページ
数日電源を切った後、再使用	① 消毒洗浄	9～11 ページ
トラブル発生時	② 分解洗浄とパーツチェック	13～14 ページ

 ザノマットを安全にお使いいただくために、必ず毎日指定の方法、推奨洗剤で洗浄をお願いいたします。その他の洗浄方法を行った場合は、機械の補償対象から外れます。

 使用したまま放置するとバクテリアが繁殖し、質の低下や健康被害の原因となります。

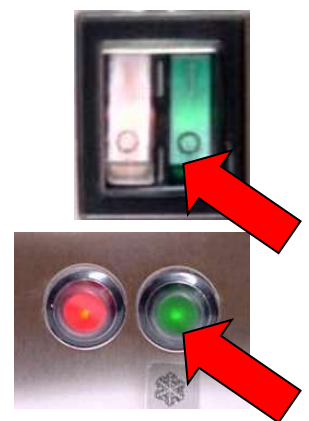
 ザノマットの洗浄に高圧蒸気を使ったり、直接ホースで水をかけたりしないでください。電気系統などの故障の原因となります。

 **洗浄の際には、保護のためにゴム手袋を装着することをお勧めします。**

① 消毒洗浄(毎日のクリーニング)

<手順>

- 1) 冷却スイッチ(緑)を切ります。(右写真)
冷却スイッチを切ることで、洗浄中の過冷却を防ぎます。
- 2) 本体の蓋を外し、中のコンテナを取り出します。
コンテナにクリームが残っている場合は別の容器にクリームを移し、コンテナをぬるま湯で洗ってください。
- 3) サクションパイプ(またはオプションのシリコンホース)をペーパータオルなどで拭き取るか、取り外してぬるま湯で洗浄してから戻してください。
- 4) コンテナに 1.5L のぬるま湯(50°Cまで)を注ぎ、本体にセットしてください。



洗浄には必ずぬるま湯を使用してください。50°C以上の熱湯を使用すると、Oリング(ゴムパッキン)の劣化が進み、機械の不具合の原因となります。

5) ステップ 1 … 予備洗浄

本体に残っているクリームを押し流します。ハンドスイッチを使い、
3秒ごとに「出す」「止める」の動作(断続運転)をコンテナ内のぬるま湯がなくなるまで繰り返してください。



断続運転をすることにより、経路内のぬるま湯が前後に流動することで洗浄効果を高める効果があります。

6) ステップ 2 … 本洗浄

洗剤を使って洗い流します。

先端のガーニッシングノズル(黒)を取り外し、
付属の洗浄ノズル(白)に付け替えます。
(右写真)

取り外したガーニッシングノズルは別途ぬるま湯
(流水)で洗浄してください。



付属の洗浄ノズルは、洗浄の水圧を高め、微振動を起こすことにより洗浄効果を高める機能があります。

コンテナに 1.5L のぬるま湯(50℃まで)を注ぎ、洗剤を投入してください。

洗剤はぬるま湯 1.5L に対して30ml が目安です。

推奨洗剤と他の洗剤を混ぜないでください。

メーカー推奨洗剤 「プロバイオクリーン N20ND」

(取り扱い:2kg 入りボトル)

- ・ 50℃以下で使用した場合でも洗浄消毒効果を発揮します。
- ・ 洗浄と消毒が一度に行えます。

1 回の使用量が 30ml 以下の場合、正しく洗浄されない場合があります。この場合は、メーカーによる保証対象外となります。



予備洗浄と同様にハンドスイッチを使い、**3秒ごとに「出す」「止める」の動作(断続運転)**をコンテナ内のぬるま湯がなくなるまで繰り返してください。

断続運転をすることにより、経路内のぬるま湯が前後に流動することで洗浄効果を高める効果があります。



洗浄時のエアレギュレーションダイヤルは、「3」以上を目安にしてください。空気を含む量によって消費する洗浄液の量が変わってきます。また、ダイヤルが「0」では機械を作動させないでください。ポンプに負担がかかり、故障の原因となります。カラ回しもできるだけ避けてください。

コンテナ内に付着している洗浄液を流水で洗います。

7) ステップ 3 ... すすぎ

経路内に残った洗浄液をすすぎます。

コンテナをすすいだあとに、1.5L の冷水を注ぎ、ステップ 2 と同じ動作を行ってください。

8) 次回の準備

洗浄ノズルとガーニッシングノズルを付け替えます。

クリームコンテナを庫内に戻し、蓋をします。

再度冷却ボタンを入れ、電源を切らずに冷却したまま終了してください。翌日にすぐザノマットを使用することができます。また、常に機械を冷却した状態にすることでバクテリアの繁殖を防ぐことができます。

*稼働させないで 20:00～8:00 の 12 時間電源を入れていた場合、6～10 円程度の電気料金となります。
(地域、室内温度による差異考慮)

*数日使用しない場合は、電源を切ってください。再使用する時点で消毒洗浄を行ってください。

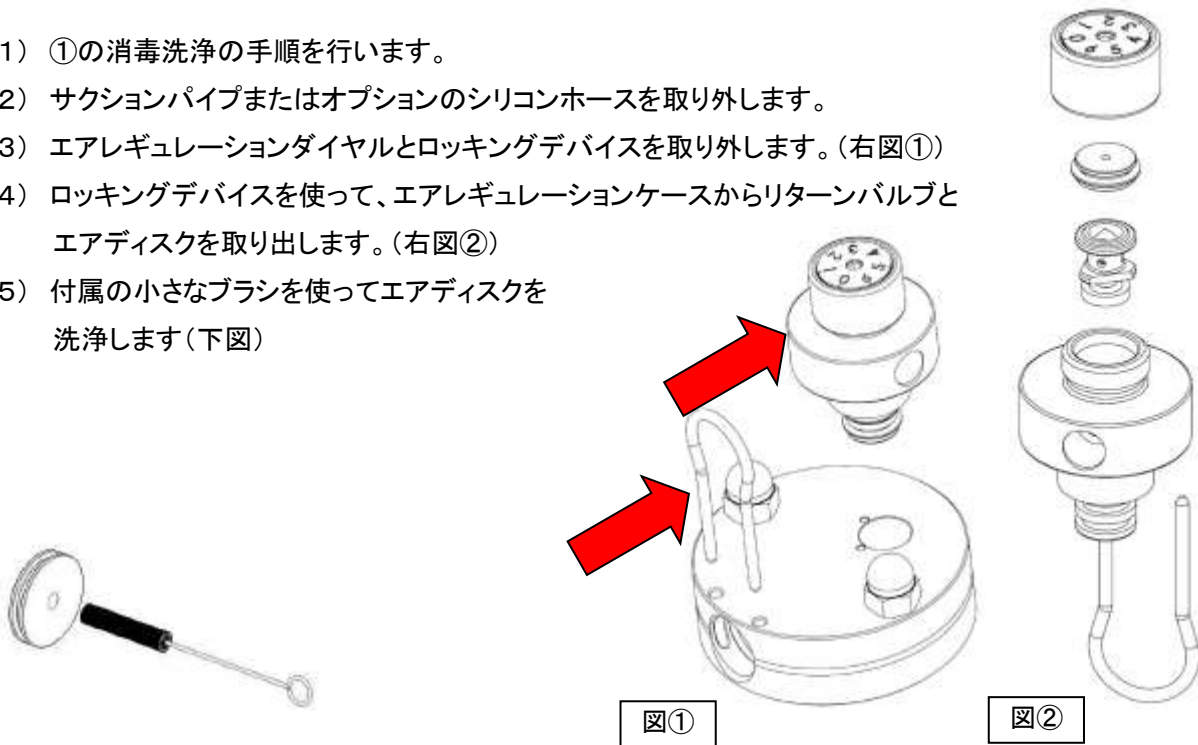


次亜塩素酸を含む漂白剤は使用しないでください。プラスチック製パーツの著しい劣化が進行します。

② エアレギュレーションダイヤルの洗浄（週1回）

<手順>

- 1) ①の消毒洗浄の手順を行います。
- 2) サクションパイプまたはオプションのシリコンホースを取り外します。
- 3) エアレギュレーションダイヤルとロッキングデバイスを取り外します。(右図①)
- 4) ロッキングデバイスを使って、エアレギュレーションケースからリターンバルブとエアディスクを取り出します。(右図②)
- 5) 付属の小さなブラシを使ってエアディスクを洗浄します(下図)



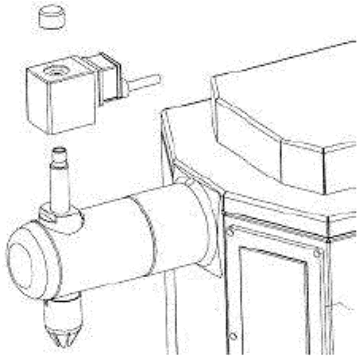
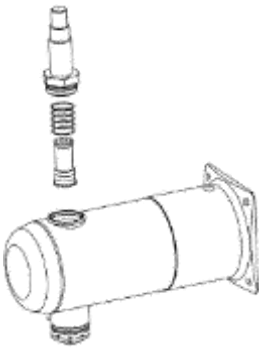


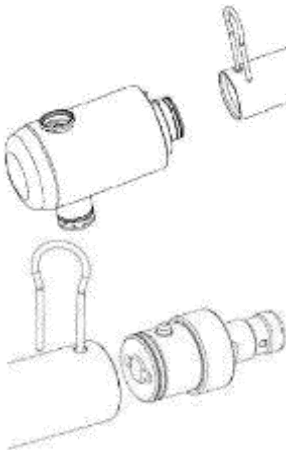
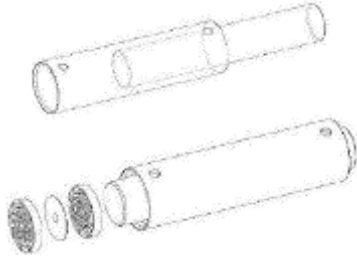
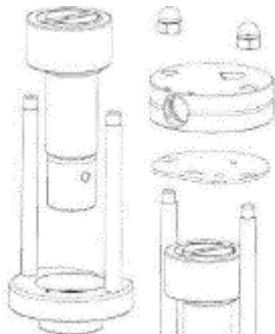
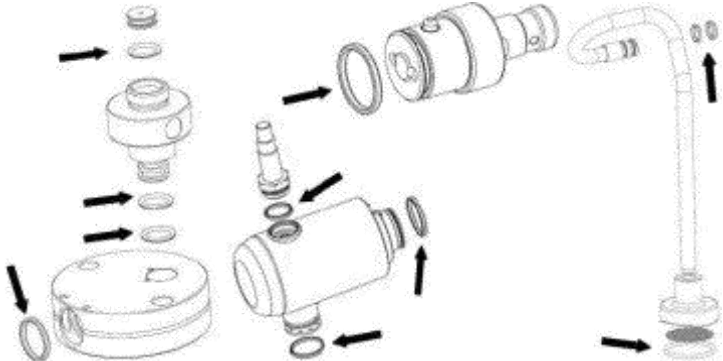
- 6) 分解したすべてのパーツを洗浄消毒液で洗浄し、すすいでください。(50°C以下のぬるま湯)
- 7) パーツを組立て、正しい位置に戻してください。このときに、エアレギュレーションダイヤルを「0」の位置にしたままにしないでください。次回作動させた時に故障の原因となります。



週1回の洗浄以外に、クリームが通常よりゆめめにホイップされる場合にも、エアレギュレーションダイヤルの内部を洗浄するのが効果的です。特に空気の量を調整する弁の部分に固まったクリームが付着すると、空気量の調整が困難になります。内部パーツを取り出すには、ロッキングデバイス(11051)を使うのが便利です。

③ 分解洗浄とパーツチェック

クリームの状態が思わしくない場合は、以下の分解洗浄と点検を行ってください。

<p>①先端上部のナットを回し、マグネットバルブを外します。</p> 	<p>②付属のスパナを使って電磁弁セットを外し、中の磁石とスプリングを取り外します。</p> 	<p>③サククションパイプを外し、エアレギュレーションケースとロックングデバイスを外します。</p> 
<p>④ロックングデバイスを使って、エアレギュレーションダイヤル内のパーツを取り出します。</p> 	<p>⑤アウトレットを本体から引き抜き、ロックングデバイスを使ってバネボタンを押しながら回転させるようにして前後のパーツを外してください。</p> 	<p>⑥付属の押し出し棒を使ってホイッピングパイプの中のホイッピングディスクとステンレスプレートを取り出してください。両端がねじで止まっていますので、全てバラバラにしてください。</p> 
<p>⑦付属のソケットレンチで2つのナットを外し、バルブヘッド、ステアリングディスク、ポンプを取り出してください。</p> 	<p>⑧各所に取り付けられているOリング(ゴムパッキン)が紛失していたり劣化していたりしないか確認してください。必要があれば取り替えてください。</p> 	

<分解>

- ・分解洗浄する場合は、電源を切って行ってください。

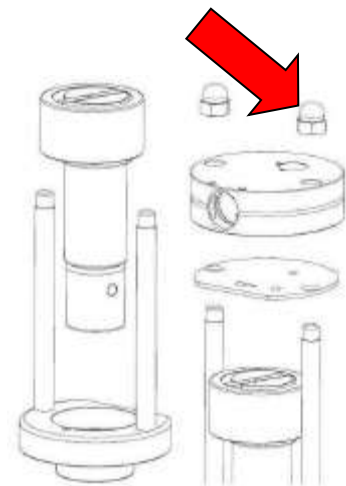
<洗浄>

- ・分解した全てのパーツの汚れを確認し、きれいに洗浄してください。
(Oリング等)
- ・ポンプを洗浄する場合は、真ん中のくぼみより下のモーター接続部に水がかからないように注意してください。ポンプ内に封入してあるオイルが漏れる原因となります。ポンプを水につけたまま放置しないでください。クリームはポンプの上部までしか還流しません。
- ・ポンプ上部のパーツ(ベンスプリングキット)は取り外して洗うことができます。(右写真上)
- ・各部品に付いている汚れが落ちにくい場合は、洗浄消毒液をぬるま湯に入れ、クリームが通る経路をスポンジ、ブラシ等を使用し洗浄してください。(右写真下)
- ・パーツの水滴を拭き取る布は乾燥したものか、もしくはペーパータオル等を使用するようにしてください。



<組立て>

- ・組み立ては分解の逆の手順で行なってください。
- ・ポンプを戻すときは、ポンプ下部の回転軸がモーターの接続部にフィットするようにしてください。
- ・バルブヘッド上部2か所のボルト(矢印)を止めるときは、付属のスパナを使い、左右均等の力で締めるようにしてください。傾いていたり、強く締め過ぎていたりすると、ポンプとステアリングが強く接触して、ポンプに負担がかかります。また、ホイッピングディスクが削られ、良い状態でホイップできなくなります。(右写真)
- ・Oリングが正しく設置されているか確認しながら組み立ててください。Oリングの周りに付属のグリースを塗布すると、ゴムの柔軟性が増し、耐久性が上がります。
- ・組立てる際には、アルコール等の消毒液を使用しながら、組み立てるようにしてください。
- ・全てのパーツを組み終えたら、最後に経路内にアルコールを通す事でより衛生的に使用することができます。
- ・分解した状態でパーツを保管する場合には、部品同士が重なり合わないよう置き、水滴が付かない状態で置くようにしてください。くぼみ、穴があるパーツはその部分を必ず下向きにし、水滴が残らないようにしてください。最後にアルコールをかけ、布などをかぶせて保管するようにしてください。



6) 不具合があった場合の対処

①・・・ポンプがクリームを吸い上げずカラ回りしている。(ポンプ・モーターは動いている)

多くの場合はクリームが通る経路内に「空気たまり」が発生することによってカラ回り現象が発生します。この場合「エア抜き」の作業が必要となります。

ザノマットエア抜き方法 (写真使用機:ユーロ・クリーム 5L)

※各モデル共通で対応。

・分解洗浄組み付け後や、空回しをしてしまった、長期間使用せず、再使用する際、『クリームが吸い上げない』場合に試してください。

① 最初の状態	② エアレギュレーションを外します。	③ エアレギュレーション差し込み部をアルコールで満たします。
		
④ 指で押さえます。	⑤ 指で押さえながらクリームスイッチを2〜3回カチカチと操作します。	⑥ ③〜⑤を3回程度繰り返します。
		

この作業を行うと④で押さえている指が吸われる力が強くなるはずですが。

⑦ 吸い上げの力が確認出来たら最後にアルコールを満たす。	⑧ エアレギュレーションを復元する。
	

これでエア抜きは完了です。

この一連の操作で吸い上げがされない場合は、ナットの締め具合の再確認、電磁弁の作動(一部モデル除く)を確認して下さい。

それでも改善されない場合は機械故障の可能性がありますのでご連絡下さい。

「空気たまり」が原因でない場合

- ◆すぐにスイッチを切り、ポンプ操作を停止してください。
- ◆コンテナが空の場合は、クリームを補充してください。
- ◆クリームが通る経路に空気が残り、吸い込みを阻害している場合があります。その場合は、
 - ① ステアリングディスクの両面をアルコールなどで湿らせる。
 - ② サクションホースまたはオプションのシリコンホースの吸い口を上に向け、強制的に水またはアルコールを流し込み、誘引を行う。
 - ③ エアレギュレーションケースを引き抜き、引き抜いた穴に水やアルコールを吸わせ、誘引する。
- ◆六角ナットが緩んでいるために、ポンプが空気を吸い上げ、クリームを吸わないことがあります。このような場合は、ナットを一度に締め上げず 2~3 回に分けて交互に締めるようにして下さい。
- ◆エアレギュレーションダイヤルを適正な数値に合わせてください。
- ◆各種 Oリング(ゴムパッキン)が破損していないか確認し、破損している場合は交換してください。
- ◆電磁弁部分を取り外し、洗浄してください。



カラ回りを続けると、ポンプに負担が掛かり高温になる現象が起こります。この場合、ポンプの熱がプラスチックパーツに伝わり、変形や熔解の原因となります。(右写真)



②・・・ホイップしたクリームが満足いかず安定しない。

◆クリームが凍っていたか、もしくは脂肪分が低すぎる可能性があります。

◆コンテナにクリームを注いだ時点で温度が高すぎた可能性があります。

◆エアレギュレーションダイヤルのノズルホール:小穴(p.13 No.40187)にクリームが張り付いている可能性があります。右図のように付属のブラシで清掃してください。



◆クリームの甘みが強すぎる可能性があります。

◆クリームが一定にならず、沈殿している場合は時々コンテナの中をかき混ぜてみてください。

7) パーツの寿命について

ポンプ(X-PUM-002、X-PUM-007、X-PUM-004-2、X-PUM-005-2)は、使用環境によって耐用年数が変わりますが、消耗パーツとして交換が必要となります。

*ただし、交換時期は乳脂肪比率、連続使用状況、加糖、空気の含有量、清掃状況、分解・組立て時の状況などの様々な条件により耐用年数に大きな差が生じます。

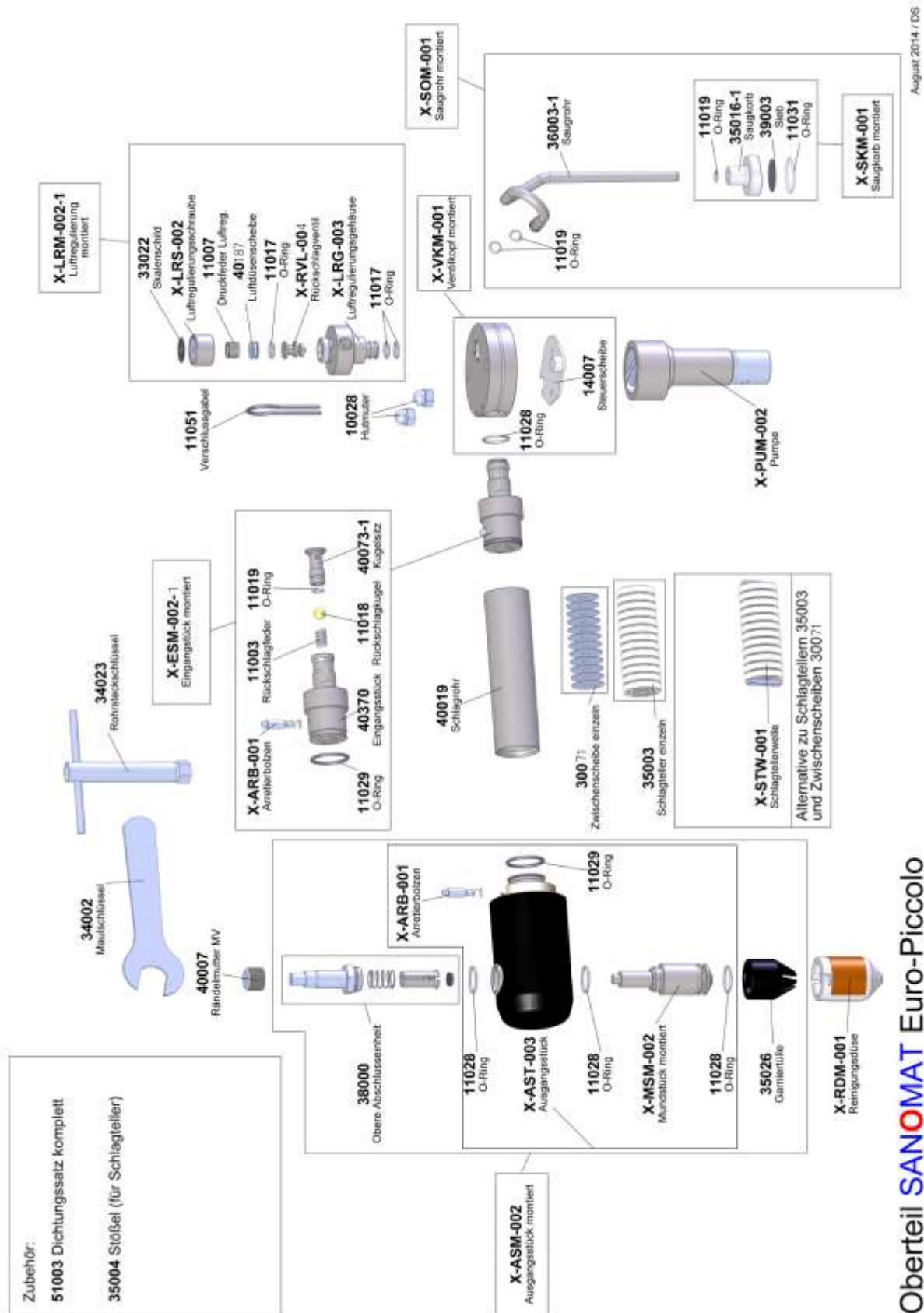
*ポンプに過度の負荷がかかる状態で(7、16 ページ参照)長期間使用すると、短い期間での交換が必要になる場合があります。

8) 廃棄について

機械本体を廃棄処分する場合は、一般ごみではなく、各行政区の法令に従って廃棄してください。

9) 分解図とパーツリスト

ユーロ・ピッコロ

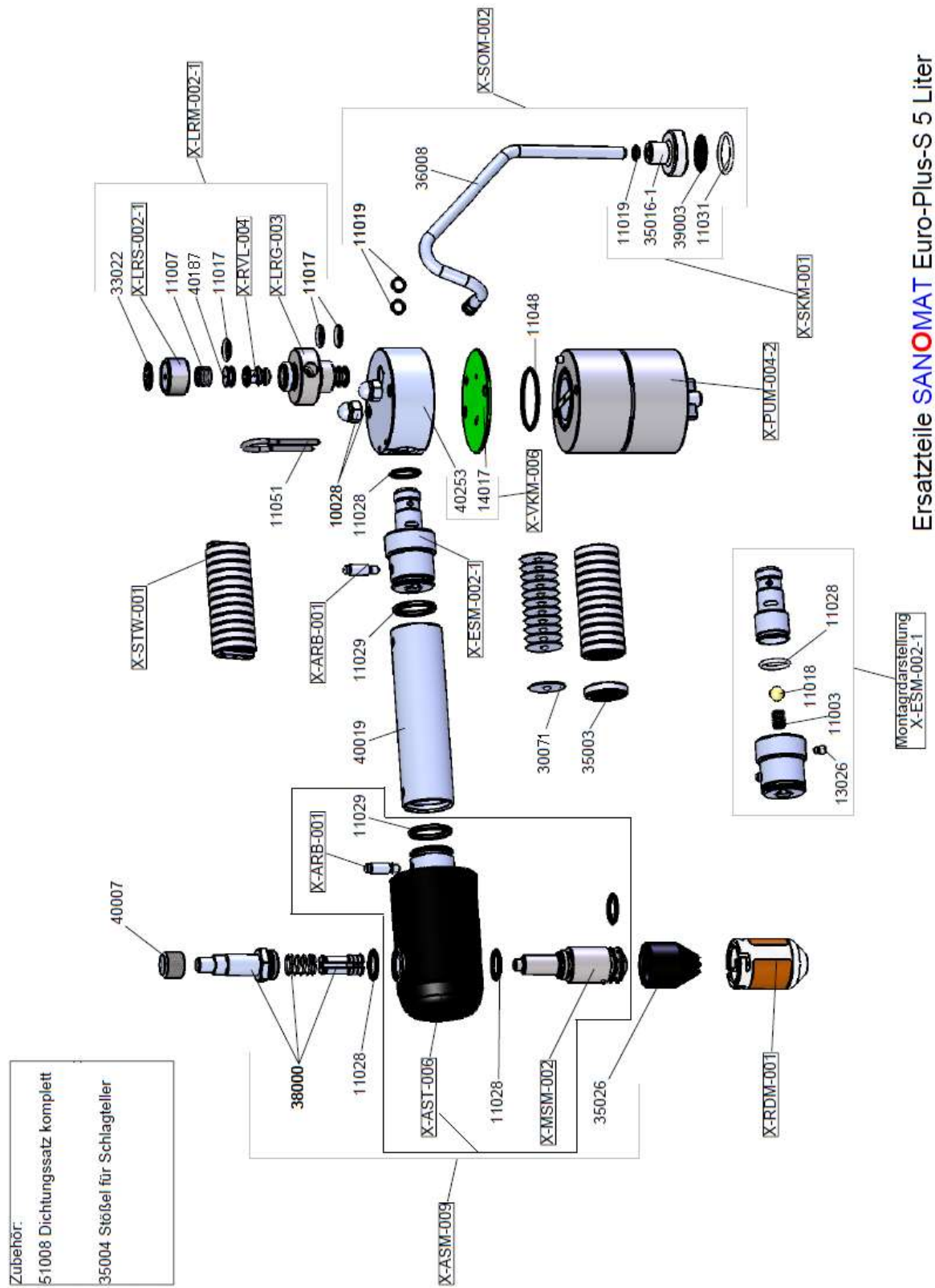


Oberteil **SANOMAT** Euro-Piccolo

ユーロ・ピッコロ

番号	名称	番号	名称
40007	ハンドナット	40187	エアレギュレーションプレート 0.8mm
38000	電磁弁セット	X-RVL-004	ノンリターンバルブ(2穴)
X-ASM-002	アウトレットセット	X-LRG-003	サクシヨンケースエアレギュレーション
35026	ガーニッシングノズル	11051	ロッキングデバイス
X-RDM-001	洗浄ノズル	X-VKM-001	バルブヘッド一式
X-ESM-002-1	インレット一式	10028	H ナット M8
X-ARB-001	ロッキングボルト	14007	ステアリングディスク
40019	ホイッピングパイプ	X-SOM-001	サクシヨンパイプセット
35003	ホイッピングディスク(1枚)	X-SKM-001	サクシヨンバスケット
30071	ステンレスプレート(1枚)	39003	シーブ
X-STW-001	ホイッピングディスクコラム (35003×12枚、30071×11枚、ロッド)	X-PUM-002	ポンプ
		35004	押し出し棒
X-LRM-002-1	エアレギュレーション一式	51003	Oリングセット
33022	目盛シール	34002	スパナ
X-LRS-002	エアレギュレーションダイヤル	34023	ソケットレンチ
11007	エアレギュレーション用スプリング		

ユーロ・プラス S



Ersatzteile **SANOMAT** Euro-Plus-S 5 Liter

ユーロ・プラス S 5L

* 他の機種は部分的に異なる場合があります。

* 生産終了モデルにつき、一部入手不可能なパーツがございます。

番号	名称	番号	名称
40007	ハンドナット	40187	エアレギュレーションプレート 0.8mm
38000	電磁弁セット	X-RVL-004	ノンリターンバルブ(2穴)
X-ASM-009	アウトレットセット	X-LRG-003	サクシヨンケースエアレギュレーション
35026	ガーニッシングノズル	11051	ロッキングデバイス
X-RDM-001	洗浄ノズル	X-VKM-006	バルブヘッド一式
X-ESM-002-1	インレット一式	10028	H ナット M8
X-ARB-001	ロッキングボルト	14017	ステアリングディスク
40019	ホイッピングパイプ	X-SOM-002	サクシヨンパイプセット
35003	ホイッピングディスク(1枚)	X-SKM-001	サクシヨンバスケット
30071	ステンレスプレート穴あき(1枚)	39003	シーブ
X-STW-001	ホイッピングディスクコラム (35003×12枚、30071×11枚、ロッド)	X-PUM-004-2	ポンプ
		35004	押し出し棒
X-LRM-002-1	エアレギュレーション一式	51008	Oリングセット
33022	目盛シール	34002	スパナ
X-LRS-002-1	エアレギュレーションダイヤル	34023	ソケットレンチ
11007	エアレギュレーション用スプリング		

